

独立混成第九十一旅団工兵隊略歴

年月日	概	要
昭五、二七	<p>官備中一号により中二ニ号編制下令            中一野戦補充隊工兵隊編制着手            編制担任部隊 滿州独立中備歩兵中二大隊            編制地 滿州國錦州省錦州            中一野戦補充隊編成完結            中将反下士官、大部は関東軍陸軍兵率部管の滿州在住に召着            兵は滿州中五部隊より編制要員として到着せる編制要員を併せ編制す            該編制は工兵隊本部及中隊を以て編制し工兵隊長高木大尉以下従員一七八名            編制人員の内訳左記の如し</p> <p>庄 説</p> <p>工兵隊本部 三三名            同 中隊 一四六名            總 計 一七八名            馬匹日本馬 七頭            大陸 若干</p>	

~346~

3201

三〇一	衢州府錦州省錦州出発
三〇二	滿支國境山海関通過
三〇五	中華民国浙江省寧波到着
三〇七	鐵南地区の警備
三〇七	將校以下三名浙江省新昌縣紹州附近の架橋作業の爲一大隊に配屬
三〇五	中隊主力將校以下二名安徽省懷遠縣皮渡附近の架橋並に交通作業の爲獨立歩兵中隊に配屬
五七	中一大隊に配屬架橋作業中將校以下三名歸隊
自 至昭三〇一	中華民国浙東地区滬甯に在りて中三大隊に協力海岸陣地構築
昭三〇二	浙江省慈谿附近骨幹陣地構築に着手
二二五	工兵中三聯隊補充隊より初年兵一七八名転入
二二〇	司令陸甲中一八号により獨立混成中隊九十一旅団工兵隊編成着手
二二三	獨立歩兵中隊六旅団配屬中の將校以下一〇七名歸隊
二二五	獨立混成中隊九十一旅団工兵隊編制完結
	中一野戰補充隊工兵隊を基幹とし編制す
	関東軍工兵教育隊より兵科見習士官七名転入
	北支那派遣軍より經理師見習士官一名転入

~ 347 ~

3202

年月日	概要
	<p>中一野戦補充隊中三大隊より下士官以下九名転入</p> <p>中四野戦補充隊より将校下士官各一名転入</p> <p>概立現中隊中九一旅団司令部補給要員として将校以下九名転出</p> <p>在支店召替下士官二名転入</p> <p>該編制は工兵隊本部二個中隊を以て編制</p> <p>工兵隊長高木大尉以下六〇二名(定員五八八名定員外一四名)</p> <p>備制人員内訳左記の如し</p> <p>左記</p> <p>工兵隊本部 七八名</p> <p>中一中隊 二六二名 (定員二五五名定員外七名)</p> <p>中二中隊 二六二名 (定員二五五名定員外一七名)</p> <p>總計 六〇二名</p> <p>馬匹日本馬 二二頭</p> <p>大陸馬 三頭</p> <p>計 三五頭</p> <p>中一野戦補充隊工兵隊復員者</p> <p>浙東地区陣地構築</p>

外 中支3

~348~

頁	頁	頁	頁	頁	頁	頁	頁
三五	三二	三三	四一	五二	六三	六五	六六
獨立歩兵中隊より編制要員として下士官以下二〇三名転入	中支那野戦兵器廠編制要員として下士官一名転出	獨立輜重兵中隊より大隊より編制要員として下士官以下三五名	大陸馬一〇頭転入	移駐の熟守波出発	中華民國浙江省慈谿縣慈谿首	同地に在りて浙東地区の陣地構築	中支那野戦補充馬廠より日本馬七頭転入
							支那派遺軍野戦造兵廠編制要員として兵三名転出
							本土兵備要員として西部軍管区司令部に下士官一名転出
							旅団砲兵隊より日本馬七頭転入
							集合作戦参加
							浙東地区陣地構築
							中七十師団より日本馬二頭大陸馬三頭計五頭転入
							傳戦諸書発
							復員下令

~349~

3204

年月日	概	要
昭三〇、九、九 九二	支那派遣軍憲兵隊要員として兵二名転出 停戦定結	
自 八四 至 九三	支那派遣軍工兵教育要員として甲種幹部候補生一名 中華民国浙江省慈谿に駐留	
自 九三 至 九三	慈谿出發	
自 九三 至 九三	中華民国浙江省蕭山に駐留	
自 九三 至 九三	蕭山出發	
自 九三 至 九三	中華民国浙江省嘉興縣嘉興に到着 同地に駐留復員準備	
昭三〇、九、五	光復軍加入のため半島出身者下士官以下二四名現地除隊 加一回兵站勤務隊要員將校以下二六名嘉興出發 改裝出身者將校以下八名 内地帰還のため嘉興出發	
昭三〇、九、二〇	全計下士官一名独立混成中隊一隊團司令部より転入	
昭三〇、九、二七	中一回兵站勤務隊人員將校以下二六名独立混成中隊一隊團司令部転属 將校以下二一名独立混成中隊一隊團司令部に転属	

~350~

3205

三九	内地帰還のため隊長以下三六二名L・S・T・00三八号乗船 上海港出帆
四二	山口県仙崎上陸 将校以下三五九名 内地除隊召解除 残務整理看隊長以下三名 除 現地 二四名 召 内地 四四名 死 亡 二六名 艦 属 四九名 生死不明 三名 入 院 六一名 計 六〇四名

~351~

3206

独立混成第九十一旅団通信隊略歴

年月日	概	要
昭二〇、三、二〇 三五	軍令陸甲カ一八号により独立混成中九一旅団編成着手 独立混成中九一旅団通信隊編成完結 中一一野戦補充隊独立混成中三旅団、独立歩兵中六旅団、独立歩兵中十旅団 中六十師団、中一一四師団、中一一八師団、騎兵中四旅団、野戦重砲兵中六 聯隊、独立輜重兵中五十五大隊よりの転入人員三三二名を基幹とし編成す 該編成は本部、有線無線の器材等を以て編成し隊長江川大尉以下三三二名右 リ 編成人員内訳左記の如し 左記	本部 二八 有線小隊 七七 無線小隊 一〇二 器材班 二五 総計 三三二 馬 四、日本馬 二五頭

~ 352 ~

3207

外 井友三

至	自	至	自
四二	四三	四五	四六
四七	四八	四九	五〇
五一	五二	五三	五四
五五	五六	五七	五八
五九	六〇	六一	六二
六三	六四	六五	六六
六七	六八	六九	七〇
七一	七二	七三	七四
七五	七六	七七	七八
七九	八〇	八一	八二
八三	八四	八五	八六
八七	八八	八九	九〇
九一	九二	九三	九四
九五	九六	九七	九八
九九	一〇〇		

同日より浙東地区の陣地構築

浙江省慈谿縣慈谿（坎溪郷）に移駐

同地に於て浙東地区の陣地構築

独立混成中隊司令部より衛生下士官一名転入

中隊司令部より衛生下士官一名転入

陸軍一等兵下田政雄浙江省鄞縣寧波市に於て逃亡

陸軍一等兵佐藤重美山田省太原才一六二兵站病院に於て戦病死

本土兵備要員として西部軍管区司令部に転属の滋衛生下士官一名出発

集号作戦参加

浙東地区の陣地構築

独立混成中隊司令部より衛生兵二名転入

独立歩兵中隊六三三二大隊に兵科見習士官一名転出

陸軍兵長前田徳永慈谿縣慈谿野戦倉庫に勤務中死亡

独立歩兵中隊六三三三大隊より衛生下士官一名転入

停戦詔書配布

復員下令

~353~

3208



年月日	概	要
昭三〇、九、二	停戦決定締結	
九三	陸軍上等兵村重一夫慈船中一六一師團中二野戦病院中二半部に於て死亡	
自 八五		
至 六三	中華民国浙江省旅船に駐留	
九三	慈船出発	
自 九三		
至 九六	中華民国浙江省蕭山に駐留	
九三	蕭山出発	
六九	中華民国浙江省嘉興縣嘉興に到着	
同地駐留 復員準備		
昭三、一〇、一五	北京歩兵教育隊に兵二名転出	
昭三、一〇、一七	陸軍一等兵栗谷正夫上海中一五七兵站病院に於て死亡	
	下士官以下三十名内地帰還の途上海港出発	
	陸軍一等兵野島貞人杭州中一七一兵站病院に於て死亡	
	上海中一四兵站勤務隊要員として下士官以下一四名中一三軍司令部に出向	
	陸軍一等兵出口忠雄上海中一九二兵站病院に於て死亡	
	下士官以下一四名創立長成中九一旅団司令部に転出	

~354~

3209

自昭  
二〇二五  
至  
四五

三六  
四二  
四三  
四五

内地帰還の難民輸送

上海首

上海港に於て乗船

上海港出帆

博多港上陸

同日将校以下一五五名召集解除 除隊

部隊号

独立混成第九十一旅団通信隊

隊長

初代 陸軍大尉 江川 勲 夫

兵力

入 院	輸 出	販 入	総 員	種 別 階級別	将校(含支)	准士官	下士官	兵	計
	四		七			一	三八	一八六	二三二
							一三	一四	二七
								一九	一九
									二〇

~355~

3210

	入院	死亡	逃亡	死傷	合計
昭三、四回	陸軍一等兵森田穂脚原に依り寧波登徒才ニ野戦病院に入院				
五五	陸軍一等兵南地玄一郎左腿挫胸膜炎に依り寧波野戦病院に入院 陸軍一等兵緒飼勝天急往療管支炎兼先天柱礎毒に依り憲給才一六一師団總に 野戦病院才ニ半部に入院				
六六	陸軍上等兵鈴木勝己慢性頸部淋巴腺炎に依り憲給才一六一師団才ニ野戦病院 才ニ半部に入院				
七三	陸軍衛生一等兵金子武脚氣兼急性肺炎に依り上海才一五七兵第病院に入院				
八二	陸軍一等兵小林清マリアに依り憲給才一六一師団才ニ野戦病院才ニ半部に 入院				
八三	陸軍一等兵岩井一雄急性淋毒性尿道炎に依り憲給才一六一師団才ニ野戦病院 才ニ半部に入院				
八三	陸軍一等兵今井和男右下肢骨折貫通銃創に依り憲給才一六一師団才ニ野戦病				

入院	死亡	逃亡	死傷	合計
三				
一				
三二	四			
一一一	二六	一	七	
一五七	三〇	一	七	

昭 三 一 五	昭 三 一 二	昭 三 一 七	昭 三 一 三	昭 三 一 五	昭 三 一 七	昭 三 一 三	昭 三 一 五	昭 三 一 七	昭 三 一 三	昭 三 一 五	昭 三 一 七
陸軍上等兵長谷川三四吉急性腸炎により上海一五七兵站病院に入院	陸軍一等兵海潮武男マリア三日熱により嘉興一九一兵站病院に入院	陸軍上等兵佐藤莊才二期梅毒により嘉興一九一兵站病院に入院	陸軍上等兵鈴木誠急性壊疽性膿瘍炎により嘉興一九一兵站病院に入院	陸軍軍曹近藤修三内科未定により嘉興一九一兵站病院に入院	陸軍上等兵齊木一才四腰椎皮下圧迫骨折により嘉興一九一兵站病院に入院	陸軍一等兵宮内弥助マリア三百熱により上海一五七兵站病院に入院	陸軍一等兵田中專右急性胸膜炎兼マリア三日熱により上海一五七兵站病院に入院	陸軍一等兵平谷琢雄前頭部打傷に依り嘉興一九一師団中野戦病院に入院	陸軍上等兵川村寛急性腸炎に依り嘉興一九一師団中野戦病院に入院	陸軍上等兵川村寛急性腸炎に依り嘉興一九一師団中野戦病院に入院	陸軍上等兵川村寛急性腸炎に依り嘉興一九一師団中野戦病院に入院

~357~

3212

							年 月 日	
將校	下士官	兵	計	入院	現除	転出	計	総人員
三	一〇	八三	九六	三	一	一	五	一〇一名
							概	
							要	

～358～

3213

自	至	昭三、二八	自	至
六八	六五	三二	三三	三六
<p>中七十師団長の指揮下にありて嘉興に於て対米作戦準備に従事  移駐の爲嘉興出發  安徽省鳳陽縣蚌埠到着  蚌埠に於て將校以下一三六名現地召集解除（内訳將校五、下士官二六、  兵一〇五）  在籍人員の状況左の如し  部隊長以下四七〇名（内入院二二名）  編成以降の死亡者 三三名  内地帰還の爲蚌埠出發  上海到着  上海乗船地に於て内地帰還準備  上海港出帆  博多港上陸  復員式完了  將校以下四五五名除隊</p>				

~359~

3214

独立野砲兵少二九大隊略歴

陸軍少佐 石橋 傳

年月日	概	要
昭三〇、三、一	軍令陸甲カ一八号鑛成下令	
三五	カ五九師団長鑛成担任官となり華北山東省桓台縣張店に於て鑛成着手 鑛成完備	
三五	部隊長以下六〇七名	
三三	鑛成完結に伴ひカ一三軍司令官の隷下に屬しカ六軍司令官の指揮に入る	
三三	移駐の爲山東省張店出張	
三三	華中浙江省抗聯杭州に到着	
三三	部隊長以下六〇七名（内入院一名）	
三六	浙江省杭州に於て対米戦斗の教育訓練從事	
六六	カ一三軍司令官の隷下を脱しカ六軍司令官の隷下に屬しカ七〇師団長の指揮 に入る	
六七	移駐の爲杭州出張	
六七	浙江省嘉興縣嘉興に到着	

~360~

3215

外 中女子

昭三、一。	一。
<p>上陸時隊隊（解除）者数</p> <p>将 校 一。</p> <p>准士官 。</p> <p>下士官 五八</p> <p>兵 四六八</p> <p>計 五三三</p>	<p>書類上の諸連絡（人車、經理、衛生等）は本隊と既に連絡済</p> <p>先遣隊として中一三軍最急經理校査了す</p> <p>本隊の位置 中支嘉興</p> <p>佐世保上船時先遣隊兵力</p> <p>将 校 一。</p> <p>准士官 一</p> <p>下士官 六三</p> <p>兵 四九五</p> <p>計 五六九</p>

~761~

3216



22

大

中  
支  
3

年月日	昭三、三六
概	召集解除
要	内訳
	将校
	一八
	下士官
	九八
	兵
	三四一
	入院患者 一八
	編成以降の死亡者 八名

~362~

3217

独立連射砲第四十一中隊略歴

陸軍中尉 系 山 敬 治

年月日	概	要
昭三〇、六、五	山西省臨汾縣臨汾に於て編成 部隊駐留地	
三	山西省臨汾縣臨汾	
四	浙江省平湖県作浦鎮	
八	安徽省鳳陽縣蚌埠市 部隊行動概要	
三	浙江省平湖縣作浦に転進駐留	
八	浙江省平湖縣作浦に於て編成	
八	安徽省鳳陽縣蚌埠に転進駐留	
二	復員の途上海乗船	
二	上海出発	
二	博多港上陸	
二	復員式等行	
三、五	各々除隊召集解除す	

~363~

3213

独立混成第九十一旅団（但し一部上海に駐留しある者のみ）略歴

陸軍大尉 田雄 正三

年月日

概

要

一部上海に駐留するに至りたる経過

申支寧波地区に位置しありたる独立混成第九一旅団（旅団長陸軍少将宇野節  
兵力約八千）は終戦後隊属負物の一部と被災患者並に搬送者（主として行軍  
不適なる弱兵）を式克に搭載して上海に先行せしめたり。

先行隊長 陸軍大尉 田雄正三

兵力 八〇〇名（含被災患者二五〇名）

負物 約二千屯（中国や三方面軍に正式接收なる）

然るにその後本隊は陸路寧波附近より上海に向えて前進

途中嘉興に駐留

先行の部隊は主力に合流するを得ず死傷隊として上海に駐留し、オ一三軍の  
直屬として帰還するに至る

死傷隊の備成は旅団内各部隊より抽出備成

残置せる被災患者並入院患者は一件書類と共に本属部隊に申し送り済み存り

参考

~ 364 ~

3219

独立速射砲第四十二中隊略歴

年月日	概略
昭二〇、三、五	<p>編成完結</p> <p>第一三軍の命に依り第一三軍臨時独立速射砲第一小隊同第三小隊を以て独立速射砲第四十二中隊を編成す（於中華民國河南首各陽）</p> <p>当時の編成（人員）左の如し</p> <p>中隊長 陸軍少尉 加藤武男          指揮官 磯見少尉以下一二名          第一小隊 三宅少尉以下二七名          第二小隊 松井見習士官以下二七名          第三小隊 土戸曹長以下三六名</p> <p>計 九二名</p> <p>陸軍少尉 加藤武男（前臨時独立速射砲第一小隊長）          補獨立速射砲第四十二中隊長          第一三軍転属</p> <p>第一三軍司令官の隷下に入るべく河南首各陽へ出発          鄭州—南村—徐州—南京—上海を経て江蘇省江甯松江に向う。</p>

~365~

3220

年月日	概要
昭二、四之九	江蘇省松江府松江に到着 六一三軍部下に入り六軍の指揮下才七。師団才一〇三大隊の区也を受け 同地附近の警備勤務の傍ら教育訓練施設作業に任ず
六一	才六軍司令官の部下に入る 作戦準備の爲め部隊は浙江省嘉興縣嘉興に集結し同地附近の警備並に陣地構 築教育訓練に任ず
八五	停戦の詔書を受け 浙江省嘉興縣嘉興に於て復員業務
八〇	才一三三師団の指揮下に入る 破見中尉以下。名現地隊隊す
八三	中隊長 陸軍中尉 和義武男死亡 陸軍中尉 三宅昌一
昭二、三之五	補佐立速射砲才四二中隊長 内地帰還の爲め浙江省嘉興縣嘉興を出発
四一	上海港出帆
四四	博多港上陸
復員完結	

~366~

3221

特設工兵第十二中隊略歴

陸軍中尉 金原定助

年月日	概	要
昭二。三。一〇	軍令陸甲カ一八号によりカ七〇師団工兵隊編成を担任し浙江省杭県在家橋に於て編成を完結す	
三、一五	編成人員 一六二名 (三八名不足)	
三、二五	才六軍に同日カ七〇師団に配属	
三、二六	移駐の爲浙江省杭県在家橋出発	
四、一三	浙江省安吉縣梅溪鎮に到着	
<p>編立歩兵カ一。三大隊より陸軍技手石光國確並に中國人五百名及小蒸気二機 付艇舟四隻航船三、解七五隻を配属せらる</p>		
<p>同地附近の警備の警備並に光号作戦準備の差築城材料(川砂)反軍需物資の 輸送業務(水路に依り梅溪鎮↓羽州↓平望鎮↓嘉興往復七日)業務に 従事す</p>		
八、三	浙江省安吉縣梅溪鎮出発	
八、五	同地に在りて同地陣地確保警備勤務に従事す	
九、四	浙江省嘉興縣嘉興山免	
	江蘇省上海五条カ七に到着	

~367~

3222

年月日	概要
昭三、九四	<p>独立工兵中隊三九聯隊長の指揮下に入り爾後帰還に至る迄同地に在りて建設作業に従事す</p>
昭三、一七	<p>上海出發          兵力九三名（役員）（出發時）          兵力 一四六名          入院 三六名          現召解 一名          死亡 一名          在世係上陸時兵分          除召案解散者 一三九名          引留者 五名          疾病整理者 二名          入院患者 三六名          疾病整理者          隊長（陸軍中尉金原定助）          人率係（陸軍軍曹石橋清樹）          二日市町復員本部に在りて疾病整理</p>

~368~

3223

一七  
一三

石橋曹長は召集解除帰郷  
隊長金原定助事務整理完了に依り召集解除

369

3224



独立自動車隊第百五十五中隊略歴

陸軍大尉 田中七兵衛

年月日	概	要
昭三、一、三	勅令五十六号勅令	
一、六	大坂警備兵兵四聯隊に於て独立自動車隊第百五十五中隊の動員完結	
一、九	屯留出發	
一、二	博多港出發 釜山港上陸直ちに同港出發	
一、三	鮮南國境通過	
一、三	奉天着	
	兵器並自動貨車受領	
一、四	奉天出發	
一、六	山海關通過	
	支那派遺軍の線下に入る	
一、五	浦口着	
	南京出發	
一、三	篋見橋着	
	同地附近の警備並に輸送業務に従事	

改

内

ノミ

~370~

3225

三、七	自	三、七	寬見橋発
			杭州に移駐す
			移駐完了後同地附近の警備並に輸送業務に従事す
六、一	至	六、一	寬橋に於て約一ヶ小隊を以て航空作戦に輸送隊として従事
六、一〇		六、一〇	支那派遣軍の戦斗序列を除かれ中六軍の戦斗序列に編入せらる
八、一〇		八、一〇	中一日三三師団の指軍下に入る
八、一四		八、一四	総戦復員業務従事
一〇、九		一〇、九	杭州発
			嘉善県西塘鎮に移駐
昭二一、三三		昭二一、三三	内地復員のため嘉善県西塘鎮を出発
三、三		三、三	上海に到着
三、九		三、九	上海港出帆
四、一		四、一	博多港上陸
			復員式終了
			部隊解散

~371~

3226

						年月日	
						兵力 概 要	
死 亡	入 院	転 属	事 故 人 員	復 員 人 員	総 員		区分 階級
				五	五		尉 官
		一		二 四	二 五		准 士 官 下 士 官
二	二	五		一 四 四	一 五 四		兵
二	二	六		一 七 三	一 八 二	計	

372

3227

第七十一兵站病院略歴

昭三〇・二一 三五		年月日	概	要																																										
<p>軍令陸用カ一八号及陸参一発カ一三三号により編成下命          完結す          人員及器械建物等は總て旧杭州陸軍病院をその儘繼承不足する分は配屬又は          交付を受く          編成完結時に於ける人員左の如し</p>		<table border="1"> <tr> <td>軍医大(少)佐</td> <td>一</td> <td>一</td> <td></td> <td rowspan="6">病院長</td> </tr> <tr> <td>中佐</td> <td>一</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>少佐</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>大尉</td> <td>四</td> <td>三</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中尉</td> <td>四</td> <td>一六</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中少尉</td> <td>一</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>薬剤中少尉</td> <td>一</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>尉官</td> <td>二</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>衛生大尉</td> <td>一</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中少尉</td> <td>二</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	軍医大(少)佐	一	一		病院長	中佐	一			少佐				大尉	四	三		中尉	四	一六		中少尉	一			薬剤中少尉	一			尉官	二			衛生大尉	一			中少尉	二			編成定員	現人員	過「不足」
軍医大(少)佐	一	一		病院長																																										
中佐	一																																													
少佐																																														
大尉	四	三																																												
中尉	四	一六																																												
中少尉	一																																													
薬剤中少尉	一																																													
尉官	二																																													
衛生大尉	一																																													
中少尉	二																																													

~ 373 ~

		年 月 日	
		概	
増加配属		要	
歯科医技師	衛生連村	計	計
兵科曹長	下士官	二八六	二八〇
兵科軍佐長	療工准尉	四〇	二二〇
兵科兵	下士官	三	二
計	衛生兵	二二二	一四〇
	馬取兵	一	一
	主計尉官	一	一
	下士官	二	二
	計	二八〇	二二〇
			(一) 内は衛生兵用看護婦とす
			一は給養係とす

~374~

3229

中支三

昭三、八五

編成完結と同時に中六軍司令官の隷下に入らしめらる  
中支那防疫給水部の復員に伴い同部中支部（在杭州）の人員は当院に配属  
せらる転属人員次の如し

将校 一三

連下士官 二三

兵 九七

軍属 四

計 一三六

病院は編成当初旧杭州陸軍病院本院たる中華民国浙江省杭州市に中一半部を  
同分院たる同嘉興市に中二半部を用改す

（中二半部長陸軍医大尉辻藤雄 人員将校以下八五名）

中二半部の編成を解き復返せしめ建物器械は中一九一兵站病院に引継ぐ

病院は疎開のため杭州市外盟隠寺附近に移転を決定

一部人員（将校以下三五名）を坑遺し改管に任せしむ

中二半部を編成

（中二半部長陸軍軍医大尉新井正男将校以下一〇二名）

前記盟隠寺附近に開設し改管站に患者を收容す

昭三、五六

五五

五三

~375~

3230

年月日	概要
昭三、八六	中一半部の一部人員を杭州に發遣（花田大尉以下約三〇名）移転を開始
八一〇	移転完了
八八	急戦に伴い旧駐屯地に移転すべく移転を開始
八三〇	移転を完了
二五	中支那防疫隊本部が三支部人員当院に配属せられたるを以て、同支部開設地（杭州市内）を以てのますに継承が二半部を開設し患者收容業務を開始す
一〇三〇	中国側の二半部建物接收に依り中一半部編成を解き人員を復原せしむ
一〇三〇	「コレラ」患者各地に猖しあるを以て中一三三師団命令により嘉興及嘉善に防疫隊を派遣す
	派遣人員左の如し
	嘉興防疫隊 中校以下三八名（班長軍医少佐 山本 貞）
	嘉善 " " 三九名（" 軍医大尉 岡崎輝博）
	内地帰還の將左記の通上海に集結
	中一七一兵站病院華鉄及江湾分病室に宿営（上海）
昭三、三三三	嘉善防疫隊嘉善出發
三三三	嘉興防疫隊嘉興出發
三三三	嘉興防疫隊嘉興出發

~376~

3231

三二四	上海到着
三二五	上海到着
三三〇	上海到着
四一	部隊は内地帰還の内命に接諸準備中
四九	果敢命令あり
四一〇	上海乗船
四二	上海港出帆
四七	舞鶴に上陸
	復員式挙行
	同日付を以て取員以下の除隊召集解除を定ぬ
	厂代の部隊長
自昭三〇、三二五	軍医大佐 山崎新
至 四六	" 中佐 高市太加一
昭三〇、四三六	



独立歩兵第六二五大隊略歴

年月日	概 要
昭三、一六	陸軍省第一三号に依り独立歩兵第四大隊編成下令 高知県歩兵第一四回聯隊補充隊に於て編成着手
一〇	編成完結 (編成人員大隊長以下一五三六名)
一五	本部 一隊中隊四、機関銃中隊一、歩兵砲中隊一、通信隊一、 中支に向い、高知市出發
一三	釜山上陸
一五	山海關通過 才一三軍司令官の部下に入る 上海乗船
一三	上海出帆
一八	福建省副候補陳頭上陸 独立混成中六二夜団長の部下に入る
一一	陣地構築及同地附近警備訓練に邁進 軍令陸甲才一八号に依り臨時編成下令

三五	歸成宛指
自昭三、五五	独立歩兵六二五大隊と改稱
至 七七	本部 一殺中隊四、機関銃中隊一、(九二式機関銃八) 歩兵砲中隊一(四
自 七七	一山砲二門、九二式歩兵砲二門、三七耗速砲二門)
至 八三	通信隊一(五号無線六、有線若干)
昭三、八四	輸成定員
八六	人員 大隊長以下 一三五八名
六面	馬匹 一〇五頭
二五	集号作戦参加
	江蘇省松江県松江附近に於て先号作戦準備及同地附近警備
	停戦に關する報告受発
	戦斗行動停止駐屯地附近に於て符命
	軍令陸甲中一六号により復員下令
	中回軍に武器讓渡
	青浦(江蘇青浦県)移駐
	復員準備

~377~

3234

年 月 日	概	要
昭三、六、二六	上海集中のため青浦出発	
二七	上海到着	
二八	乗船上海港出発	
二九	佐世保上陸	
	(上陸人員大隊長陸軍少佐田口解夏以下一、三一九名)	
	人員内訳	
	総員一、五一一名	
	内地除隊(召解) 一、三一九名(含残務整理)	
	現地除隊(召解) 四〇名	
	死 六三名	
	生死不明 一六名	
	入院患者 七九名	
	残 留 (LST) 九名	
	転 属 八七名	

36

外

中支3

B

~380~

3235